



地中海通信

イタリア人准教授が研究する

憑依と除霊

ヴェネツィア出身のアンドレア准教授は東洋学の学びをきっかけとして、日本で研究生生活を送ることになった。獄地へ繋がる場所に着目し、憑依について調査する。

■地獄の入口

日本には「地獄の入口」とか「魔界へつながっている」とされる場所があります。私はこれまで、そういった場所である青森県恐山や富山県立山・神奈川県箱根・京都市六原などを調査してきました。多くは人間の生活圏と少し離れた川の傍にあり、死体を葬る場所だったのです。

■心霊スポットをめぐる

実は呪術、イタコといった憑依に関する研究は比較的古い学問です。京都大学に研究員として勤めていた時、伝承や伝記をどのように現代の研究に継

続させるかを課題とし、心霊スポットについて調べ始めました。

フィールドワークのひとつとして行ったことは、酒場で人の話に耳を傾けることです。彼らは幽霊や憑依についての話を私に聞かせてくれました。最初、その類のことは聞き流していましたが、あまりに数が多く、深刻であることが気になりはじめたのです。

■憑依の正体とは

通常、気分が悪くなると病院に行きます。ですが、そこで治らずに、儀礼で治癒したとされる患者について以下のようなこ

とを検証してきました。

- 1 通院で症状はどう変化したか、どの診療科に案内され、何という病名で診断されたか。
- 2 儀礼（ご祈祷・お払い）を受けた経験や感覚
- 3 治癒とは何をさすのか

■文化の違いで名前が違う

イタリアではカトリック教の考え方が強く根付いているため、人が幽霊を見るといった経験はありません。同じような感覚に陥っても幽霊という文化がなければ、エネルギーという別の単語に変わったり、体験に気付かなかつたりします。お祓いの比

較としては、数は少ないですが、エクソシストが存在します。いわゆる悪魔祓いと呼ばれるものです。日本の憑依と症状は違いますが、共通項も見られます。

いずれも身体の関わりや、反応、治癒過程について調査します。どんな文脈によってそれらが位置づけられるか、という研究です。世の中には私の研究領域が助けになるであろう人達が多く存在しています。身体に起こる事象には科学的に説明がしきれない分野があり、研究分野が医療や社会制度に広く応用されていけばと願います。

DE ANTONI Andrea

デアントーニ アンドレア
立命館大学 准教授

国際関係学部 / 国際関係学科

2003/10 ヴェネツィア カ・フォスカリ
大学 外国語学部 東アジア学科 卒業

2010/02 同大学院 博士課程 修了

京都大学人文科学研究所の特別研究員として来日。同志社大学非常勤講師や京都大学（人文科学研究所）・研究員を経て現在、2014/04 から立命館大学国際関係学部・准教授

【地中海通信とは】

B.S.TIMES とイタリア文化会館 - 大阪が連携して
イタリアの文化を紹介する企画です
イタリア文化会館 - 大阪
<http://www.iicosaka.esteri.it>

